

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループ 2)

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	令和元年7月15日	開設年月日	平成15年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 9月 18日	評価結果決定日	令和 元年 10月 7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安全に安心した生活ができ、残存機能を生かしその人らしさを大切に支援を目指しています。職員会議で理念の共有を行い実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々の唄や踊りのボランティアの受け入れや馴染みの床屋や洋服店等に協力頂きながら地域との交流を継続して頂いています。地域の避難訓練参加や地域主催の講習会にも参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様や友人等、来所頂いた方々には認知症に対する偏見や誤解が生じる事がないよう、お話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に定期的開催し、利用者様、ご家族様、地域の代表の方、役場の担当者、包括支援センター、地域の婦人会の方々に参加して頂き、利用者様の状況や施設の運営、行事について報告するとともに、情報交換やアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席頂いたり、遊佐役場の窓口には随時伺い、利用者様の情報報告を行ったり、各種手続きの情報を頂いたり情報共有化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	介護理念に掲げた「拘束のない介護」を目指し、3ヶ月毎にカンファレンスを開催している。徘徊による外出や転倒防止の為に、玄関に風鈴やベッド脇に鈴をつけさせて頂く等、工夫しながら拘束しないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を起こさないような職場の環境作りに努めている。職員同士で些細な事でも話し合いをもてる環境であり、また、施設内研修にて虐待の理解を深め虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設では現金や通帳等を預からない為、制度が必要な利用者様には積極的に関係各所と連携し活用している。定期的に訪問される支援員と情報交換を行い情報を共有しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご本人様、ご家族様に対し、事前に施設の見学をして頂き、その際に施設で出来る事や出来ない事等を丁寧に説明し十分に納得して頂いてから入居を決めて頂けるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者の明記や御意見箱の設置により御意見を頂くようにしている。運営推進会議へのご家族様の参加やご家族様が面会に来所された際には何でも話せる雰囲気、環境作りを心掛けている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気が付いた事を申し送りノートを活用しながら意見の提案、検討を行っている。また、重要な案件の際には臨時に職員会議を開催し話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤労年数や資格の有無だけの評価ではなく、仕事に対する姿勢や能力向上への意欲を昇給や賞与に反映させている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修会だけではなく、介護技術の向上へ繋がる新聞等の記事を切り抜き随時研修会を行っている。研修の内容を全職員と共有しスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加。研修会等への参加で他施設の職員と情報交換を行い、なごやかスタッフに伝達する事で仕事に生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様が不安にならないよう、事前に施設の普段の様子を見て頂き、雰囲気を感じて頂きながら、不安や要望を受け止め施設の特徴を説明させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の心配事や要望を伺い、施設で対応可能な部分をご理解頂きながら、十分に話し合う事でご家族様が不安なく生活できるよう支援させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、他サービス事業所、医療機関等の関係者同士が話し合いご本人が必要なサービスを見極め、サービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存機能を生かして出来る事をして頂き共に生活していく中で、利用者様の豊富な経験や知識を学ばせて頂きながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族様へは、電話にて近況報告や利用者様と直接会話して頂いたり、面会で来所できるご家族様にはゆっくりと会話できる環境を整え、家族の絆を大切にしている。お帰りの際には、何時でも気兼ねなく遊びに来て下さいと伝え来所しやすい雰囲気を心掛けている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のご家族様や友人が何時でも面会に来所できる環境を整えている。馴染みの美容室に出かけたり地域の床屋さんの出張サービス等を利用し古くからの顔なじみの関係が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性に合わせ隣同士の席にしたりと配慮し、家族の様な居心地の良い環境を心掛けている。利用者様同士で助け合う姿もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、やむなく退所となる場合であっても、ご本人様やご家族様の相談に応じ他サービスの利用等、退所後も安心して生活できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や関りの中で、ご本人様の要望や意向を見極めサービスプランへ反映できるように努めている。ご家族様へも協力して頂ける所はお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時にご本人様やご家族様より、これまでの生活の様子を伺い職員間でも情報を共有している。面会の友人様や親族様からも情報を頂きながら支援に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事や水分量、排泄状況の記録の他に、些細な変化が見られた際には申し送りノートを活用し、経過を観察できるよう職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの作成は、部屋担当職員を中心に夜勤者以外全スタッフ参加にて、ご本人様の希望やご家族様の意向、日々の生活の中での課題をプラン作成の参考にしている。6ヶ月毎に見直し評価を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌、個別の経過記録簿を活用し記録している。日々の変化や受診結果、薬の変更等、申し送りノートにも記入し情報を共有し支援に活かしている。		
		○地域資源との協働	利用者様の慣れ親しんだ美容室へ外出されたり、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の出張理容を依頼したり、三味線や踊り、唄等のボランティアを受け入れ利用者様の楽しみとなっている。また、地域の洋服店で衣類の写真を撮らせて頂き利用者様に好みの洋服を選んで頂く等、工夫している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望で、かかりつけ医を決めて頂きご家族様が付き添い可能な時は、近況の報告と情報提供の手紙を持参して頂き、ご家族様と主治医との情報共有に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護職員として勤務している事から、利用者様の小さな変化も逐一報告し指示を仰いでいる。また、急変時にはホーム長の自宅が施設に隣接している為、迅速な対応ができる環境である。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居中の情報を医療機関の看護師へ申し送り情報の共有を行っている。ご家族様、医療機関と連携し入院中の状況を確認しながら、退院に向けての相談を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学の段階で、重度化した場合や終末期での利用者様とご家族様の意向をお聞きし、当施設で対応できる事出来ない事を十分に説明し、納得して頂いてから入居へと段階を経ている。また、入院や他施設への入所申請支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはマニュアルを基に全職員を対象に研修会を行っている。看護師であるホーム長より応急手当や初期対応の指導を受けている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で避難誘導、初期消火、消防署への通報、消火器の使用実践を行っている。地域住民主催の防災研修会に参加させて頂き、グループホームでの避難情報等を報告させて頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護条例や守秘義務の重要性について、全職員を対象に研修会を行っている。一人ひとりの人格を尊重した声かけが出来ているか、また、職員同士確認しながら日々の言葉かけに気をつけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や不満も含め自由に話せる環境、雰囲気になっている。話づらい事は居室で個別に話を聴かせて頂き希望に添えるよう支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内では大まかな生活リズムは決まっているが、起床時間や就寝時間等は今まで生活してきたリズムがある為、利用者様のペースで過ごされている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを利用者様と選んだり、利用者様の希望で慣れ親しんだ美容院へ外出支援や出張理容院、また、外出困難な利用者様には洋服店の服をカメラで撮らせて頂きご本人様から選んで頂く等、身だしなみやおしゃれを楽しまれている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合わせてメニューを工夫したり、利用者様に合わせた食事形態で提供している。職員も一緒に同じテーブルで同じものを食べ家族の一員として食事を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し、また、受診時の血液検査での結果を参考にしながら一人ひとりに合った食事形態を工夫して提供している。水分摂取が困難な方には工夫しながら摂取して頂いている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回の口腔ケアは職員付き添いにて、ご本人様の状態に合わせ声かけや歯磨き介助にて清潔が保持できるよう支援している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握し、定期、随時でのトイレ誘導で排泄介助を行い失敗等の減少に努めている。夜間は、身体状況を考慮し、ご本人様確認のもとベッド脇にポータブルトイレを設置させて頂き、なるべくおむつ使用を軽減できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認と記録をしっかりと行い、食物繊維の多い食材の提供や水分が不足しないよう支援し、また、運動やマッサージで排便を促し便秘の軽減に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や希望により入浴日や時間を変更している。入浴時は職員との大切なコミュニケーションの場となっており、笑い声や唄声が聞こえてきたりと楽しみの時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣に配慮し、居室で休息されたり、リビングでうたた寝されたりと体調に気をつけながら支援している。夜間寝付かれない方に対しては夜勤者と会話しながら、ひと時を過ごして頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬剤情報に必ず目を通し、受診後の薬の変更、追加等については申し送りノートを活用し全職員が薬の情報を共有できるようにしている。服薬時には声を掛け合い誤薬の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の軽体操やコミュニケーションを皆様、積極的に楽しみながら参加して頂いている。一人ひとりの残存機能を生かし出来る範囲でお手伝い頂き、都度お礼を述べて生活の張り合いの一つとさせて頂いている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には施設周辺の散歩を行ったり、花見やドライブを楽しまれている。散歩の際には地域住民の庭を見せて頂いたり協力して頂いている。また、ご家族様や身元引受人の協力のもと外出し食事や買い物も楽しまれている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できて所持金のある方は少なく福祉サービス利用者様等は事務者管理で小遣い帳記入しご本人様より確認して頂いている。職員付き添いで買い物に出かけた際には、立て替え払いであっても、ご本人様が払えるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者にはご家族様や友人様への電話代行支援を行い、ご家族様にも気軽に連絡して頂けるようお願いしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はリビングを中心に配置されており、常に開放的である。白内障の利用者様も入居されている為、皆様が快適に過ごせるよう明るさや、体調不良の原因にもなる為、温度の調整には配慮している。季節を感じられるような飾りつけや行事の写真を飾り、またトイレや居室の場所がわかりやすいよう表札を付け工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に合わせ、気の合った方同士で話が弾むようなソファや車椅子の配置にしている。また、独りになりたい時は、居室は個室であるが、ほぼ皆様リビングで過ごされている。食堂のテーブル席も楽しく食事ができるように介助が必要な方とのバランスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望を取り入れたり、自宅の部屋のような家具の配置にしたり、担当職員とコミュニケーションをとりながら居室の飾り付けを行ったりと居心地の良い空間になるよう心掛けている。馴染みの家具やご主人様の位牌を安置される利用者様もおられる。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物各所には手スリが個々の能力に合わせて、安全に移動、また介助できるよう配置されている。大き目の表札や好みのマスコット等を吊り下げ迷わないよう工夫している。		